

# 東部地区文化祭

10月13日(土)



# 東部地区サークル発表会 11月11日(日)

防災活動の充実・旧町名の活用・  
飼い猫のルール問う — 市政懇談会開催 —

10月25日(木) 19時から東部公民館で地区住民70名余りの参加をいただき、住民と松本市長・副市長・幹部職員による「市政懇談会」が開催されました。

最初に市長より「松本のまちづくり」の取組報告後、3つの課題について意見交換しました。(主な質疑を記載)

「地区防災活動の充実について」

【質問】

防災対策は、防災設備は整ってきているものの、地域に根差した防災リーダーは不足しています。「健康づくり推進員」と同様な「防災推進員」制度を創設し、非常勤の職員として保証し、防災部員の役割を強化したかどうか。



議事を進行する北沢町会連合会長

【答弁】

地区防災組織の在り方として効果があると思うが、地区・町会や新たな推進員の負担増が懸念されます。地域で助け合う自主防災を基本に、地区の実情にあった防災組織の充実を図っていただきます様お願いいたします。

「旧町名の活用について」

【質問】

旧町名の石碑設置に感謝しますが、市民や観光客の旧町名の活用や認知度がまだまだ低い。

旧町名を活用すれば誇りを持ち、その誇りが愛着に繋がります。さらに住民の連携が深まります。具体的な取組を期待します。

【答弁】

旧町名の活用や復元に繋げるため、平成26年から現状や課題の整理等に着手しました。その後、ソフト6事業を推進し、平成28年に事業を終えました。

各地域にあった取組をお考えいただき、市としてもそれをお手伝いできればと考えて

います。

「飼い猫のルールについて」

【質問】

野良猫の糞尿や鳴き声等の被害が多発しています。市は助成事業や飼育ルールの徹底を図っていますが効果は地区ではほとんど見られません。

飼い猫と野良猫の識別がはっきりとできる「登録制度」を創設したらどうでしょうか。

【答弁】

猫は犬の登録義務と異なり法律による規定はありません。制度の導入で野良猫と判明しても保健所では積極的に引き取りませんし、一部の自治体で登録制度を導入していますが効果は薄いのが現状です。今後も猫に対する理解と協力が得られる様、啓発活動を行っていきます。

東部地区バレーユニフォーム新調  
— 市長杯バレー大会 —



「ゴミ」について考える  
— ゴミステーション設置に寄せて —



餌差町(上)と清水中(下)

「ゴミ」回収ではいろいろな苦労があります。分別回収の際の対象物以外の持ち込みによるゴミ放置(結果的には毎度のことです)、これを常に片付ける役員さんには頭が下がります。収集場所の指定では理屈を越えた住民の理解・協力で成り立っているにもかかわらず、いつの間にかゴミ捨て場化しています。自分達のゴミならまだしも、他地区からの持ち込みゴミにいたっては怒り爆発ですが、それをぶつける場所がありません。ゴミ回収とは異なりませんが、ポイ捨てゴミ、タバコの吸い殻についても相変わらず後を絶ちません。

私たちが日々を暮らし、その結果として「ゴミ」が生まれますが、「ゴミ」との付き合い方についてはちよつと考える必要があるような気がします。「ゴミ出しは一家の誰の仕事か」「他人さまのゴミをなぜ疎ましく感じるのか」「ゴミ出しルールのモラルに係る問題」等々、なんとなく隠してしまう(または逃げてしまう)「ゴミ」について、

血液の動脈と静脈の例えもあるように私たちが生きていく上での必然として「ゴミ」ともつと深くかかわる必要があるのではないのでしょうか。

さて、清水中町会及び餌差町町会では、写真のようなゴミステーションを設置しました。資金面では松本市からの補助もあったとのことですが、これによって、ゴミ収集に係る役員の負担軽減と町の環境美化、不法投棄の防止等が期待されます。当然ゴミステーションを作ったからと言ってすべての問題が解決するわけではありません。しかし問題に真摯に向かい合い、その解決のために行動していくことが、住民のゴミに対する意識の啓発、さらにはモラルの向上に繋がっていくのではないのでしょうか。